

令和2（2020）年度各教科の授業改善アクションプラン中間報告

1. アクションの取り組み度合と成果 掲載

凡例：

取り組み度合

A：積極的に取り組んだ B：ある程度取り組んだ C：あまり取り組まなかった D：ほとんど取り組まなかった

成果

A：かなりの成果があった B：一定の成果があった C：あまり成果が得られなかった D：ほとんど成果が得られなかった

① 国語

アクション1	小テストを計画・実施し、到達度を明確化する。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	A：かなりの成果があった
アクション2	多面的な評価が行えるよう、ルーブリックの項目を工夫する。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション3	ICTを活用するなどして意見発信、交換の場を設定する。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった

② 地歴公民

アクション1	ICTを活用し、授業内容と実社会が関わる資料をこまめに授業で取り上げ、生徒の学習に対する興味、関心を高める。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション2	単元や毎時の授業で確認テストを実施し、知識の定着を図る。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	C：あまり成果が得られなかった
アクション3	単元（授業）の問いを生徒に示し、資料を活用しながら自分の言葉で問いに対する考えをまとめさせる。生徒の記述や発表等を評価する際は、ルーブリックを活用し適切に生徒にフィードバックする。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	B：一定の成果があった

③ 数学

アクション1	小テストを単元ごとや授業ごとに行うよう計画・実施する。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション2	応用問題も扱い、既習内容から未習内容を導ける機会を設定する。			
検証	取り組み度合	C：あまり取り組まなかった	成果	C：あまり成果が得られなかった
アクション3	途中計算や考え方を書かせる。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	A：かなりの成果があった

④ 理科・農業

アクション1	実験・観察を行えるよう、実験室の環境整備し、授業計画を充実させる。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション2	ICT 機器を活用し、身の回りの事物・現象と学習内容を結びつける。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	A：かなりの成果があった
アクション3	基礎的な確認テストを定期的実施する。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった

⑤ 外国語

アクション1	パフォーマンステストを行う際に、教科書の内容と関連付けたり、発展させたりできるように目標設定を工夫する			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション2	5領域の中で、科目に応じた適切な支援を行い、「すべての生徒が科目ごとの一定の水準をクリアし、達成感を得られる」ように配慮する			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった

⑥ 保健体育

アクション1	知識の定着（資料やICTの活用等）を図り、スパイラル型の授業展開をする。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション2	単元の間いを生徒に示し、自分の考えを言葉でまとめさせる。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション3	ゲームや実技テスト、定期的な振り返りシートを実施し、自己の目標の明確化と技能の定着を図る。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	B：一定の成果があった

⑦ 情報

アクション1	タイピング練習等を毎時間実施し、情報機器の扱いを習熟させる。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	A：かなりの成果があった
アクション2	社会の情報化に関する問題を取りあげ、言われたことを記入するだけでなく自身の考えを発表、共有する機会を設ける。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション3	筆記や実技の小テストを単元毎に実施し、知識や技能の定着を図る。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった

⑧ 芸術

アクション1	生徒の実態に合った題材を設定し、主体的に取り組めるようにする。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション2	互いに発表し合う機会を多く設ける。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション3	ICTを活用し、生徒の興味・関心を高める授業の工夫をする。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	B：一定の成果があった

⑨ 家庭

アクション1	生徒の実生活に結び付く題材を設定し、実習内容を工夫する。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	A：かなりの成果があった
アクション2	単元や毎時の授業で自分の考えをまとめさせる。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション3	ICT を活用し、生徒の興味・関心を高め、生活技術を向上させる工夫をする。			
検証	取り組み度合	B：ある程度取り組んだ	成果	A：かなりの成果があった

⑩ 商業

アクション1	毎時間最新の事例を紹介し、能動的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション2	実際に社会で起こっている事柄の理由や意味について考える癖を身に付けさせる。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった
アクション3	実際に自分が経済活動を通して社会にかかわっていく心構えを学ばせる。			
検証	取り組み度合	A：積極的に取り組んだ	成果	B：一定の成果があった

2. アクションの具体的な成果と今後に向けた課題

① 国語

成果	<ul style="list-style-type: none">・小テストの実施により、生徒に常に目標を持って学習する意欲が生まれた。・ICTを利用した資料配付や課題提出によって視覚的教材を提供しやすくなり、生徒の理解につながった。
課題	<ul style="list-style-type: none">・ループリックの作成を定着させ、評価の観点をより明確にする。・すべての教員が自在にICT機器を活用できると良い。

② 地歴公民

成果	<ul style="list-style-type: none">・自分の意見をまとめるなど、文章を書く能力が向上した。・気になることに対する質問が多くなった。・クラスルームの操作に慣れてきたことで、様々な手法で授業を展開でき、グラフなどで生徒の回答状況を確認しやすくなった。・勉強する習慣を身につけられた生徒がでてきた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・単元テストが実施できていない。・ループリックの作成に時間がかかっている。・クラスルームの操作に生徒も教員もまだ慣れておらず、クラスルーム上で宿題を出すと、提出率が下がる。・リモート学習のプラットフォームはPCだと思う。クラスルームもPCで使える工夫はないか。スマホと紙の使用場面を今後精選していく必要がある。

③ 数学

成果	<p>アクション1：記憶の想起を習慣化することで、基礎的な知識の定着につながったが、授業進度の都合でできない場面もあった。</p> <p>アクション2：個別での対応だが、主体的に考える姿が見られた。</p> <p>アクション3：どこで間違えたか判断できた生徒もいた。</p>
課題	小テストの実施を徹底して、取り残される生徒を減らし、学力の底上げを図る。また、既習から未習へ、基礎から応用へ、理由から結果へ、という数学を学ぶ流れを生徒に徹底させて、主体的に自身の力で学びを得ようとする姿勢をより養っていく必要がある。

④ 理科・農業

成果	実験室に新たに扇風機が2台ずつ配備され、換気の機能が向上し、コロナウィルス感染予防を意識した実験を安全に行う事が出来た。また、ICT機器を活用し、調べ学習やメディアの閲覧、実験動画の共有などを通じて生徒が理解しやすい授業や実験を行った。
課題	実験室の換気は良くなったが、夏に実験を行うには室温が高すぎる。エアコンの配備をお願いしたい。ICT機器においては授業中の利用をもっと増やし、効果を得ることが出来ると思う。確認テストも引き続き行いたい。

⑤ 外国語

成果	<p><アクション1></p> <p>①want to を使い奈良旅行について行きたい場所を発表できた。(基礎英語) ②本文の要約文を暗記し発表できた。(コミュⅡ) ③単元の新出文法を用いて手紙を書かせたり英語で会話させたりした。(コミュⅠ) ④英語で意見文を書かせ、その際に既習事項を積極的に使うよう促した。(英表Ⅰ) ⑤小笠原諸島を扱った単元で世界自然遺産の紹介文をやりとりの中で相手に伝えることができた。(コミュⅢ) Rhyming についてゲームを通して発表できた。(基礎英語)</p> <p><アクション2></p> <p>①リピートする文の長さを徐々に増やしたり、文頭を教えて思い出させるようにした。時間を測り読むスピードの成長度合いがわかるようにした。(コミュⅡ) 数多くの問題プリントを使用し、本文の内容、文法等の理解を深めた。(コミュⅡ) 教員がモデルを示してからパフォーマンスをさせた。(コミュⅠ) グループを形成し、その中で話し合いを行わせることで理解度の統一を図った。(英表Ⅰ)</p>
課題	<p>②他の生徒と学力差が大きい生徒、学力はあっても意欲が著しく低い生徒に対して、他の生徒と同じようにできることが少なく、やろうとする意欲を引き出しにくい状況が続いた。声掛けを続け、単語練習、テストなど授業開始時の形式的なものは取り組むが、取り組もうとしない生徒がクラスにいる。(基礎英語、コミュⅢ)</p>

⑥ 保健体育

成果	<p>コロナの感染予防や熱中症警戒アラートの対応等、新しい生活様式の中で、生徒が求める授業内容を実施することができた。</p> <p>資料やICTを活用した課題解決型の授業展開により、生徒の主体的な取り組みが見られた。</p>
課題	<p>高めた思考・学んだ知識を、体育では技能向上に繋げ、保健では日々の生活の健康・安全に活かせるように、引き続き対策を取りながら努めていく。</p>

⑦ 情報

成果	<p>タイピング練習を毎時間実施したことにより、生徒のタイピング技術は飛躍的に向上した。</p> <p>表計算ソフトの学習においても復習の機会を多くしたことにより技術を定着させることができた。</p>
課題	<p>文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な技術は定着させることができたため、それらを活用した授業展開を多く設定し、思考力や技能を育成することに重点を置いていく。</p>

⑧ 芸術

成果	<p>生徒の実態に合った題材を設定し、生徒が主体的に取り組むことができた。感染予防に気を付けながらグループ活動やプレゼンテーションを行い、発表し合う機会を設けることができた。ICTを活用して、題材の説明などを行い、生徒に分かりやすく伝えることができた。</p>
課題	<p>身についた技術や知識を一層深められるように指導を行う。ICTの活用を増やし、芸術を身近に感じられるように指導を続ける。</p>

⑨ 家庭

成果	生徒の実生活に結び付く実習内容として、「家庭基礎」では新しい生活様式にかかせないマスコ作りを行い、実生活に役立つ技術と態度を身に付けさせることができた。 ICT を活用し、細かな技術指導や調べ学習、スライドを利用した発表など授業を効率的に行うことができた。
課題	コロナ感染の予防に努めながら調理実習などの実習を行い、生活技術を向上させるような授業を行う。 よりわかりやすく、効果的な ICT の活用方法を検討する。 授業の課題や振り返りについて、ICT を利用するなど、よりよい指導方法を検討する。

⑩ 商業

成果	例年になく、授業で扱えたビジネスにおけるケースが多く、授業そのものに深みが増したように考える。
課題	理屈の部分の理解に例年に比べて課題があり、ケーススタディの増加とのバランスを今後考えていきたい。